



全国難病センター研究会開催

2月19日、津アストで開催されました、「全国難病センター研究会第27回研究大会（三重）」で、山田会長がCTF松阪を代表して発表されました。演題は「難病患者様への意思伝達支援 in 三重」で、日頃の意思伝達支援の状況や留意している点などに関する発表でした。

この大会には、北海道から沖縄まで全国から、保健師や大学の先生方、看護師、支援者など150名の参加がありました。

写真の左端がCTF松阪山田会長、右端が座長の河原洋紀氏です。



四五百発

「えらい事やわ！」

昨夜から、咳が出て熱があったので町内の内科に行っていた家内が帰ってくるなり、こう言った。

「なんやな？」とは僕。「インフルエンザA型やて」

先生に「うつすとあかんて」言われたと、さっさと二階へ家庭内別居。

この様になったのが、先月7日の事。家庭内別居のかいも無く9日の朝には、僕も8度5分の熱が出たので主治医に電話してインフルエンザの検査をして貰う事になり病院へ出向く。鼻をゴジゴジされ、出た結果は何と〈一〉。

検査後主治医の先生は「川口さん、検査は陰性ですが、奥さんがインフルエンザだと川口さんも感染100%間違いないので、特効薬を処方します」

出された薬が、一日2回、五日間吸引する「リレンザ」でした。

この薬本当によく効き、最初の吸引で熱も、咳も治まる即効にびっくりしましたが、先生の言いつけをちゃんと守りお薬は、全部吸い切りました。

最近テレビの「プレパトランキング」の俳句にハマっているので一句。

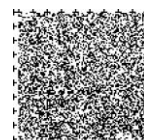
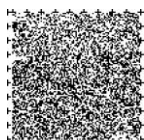
インフルエンザ

リレンザ吸うお(音)と

妻とに(二度)ど



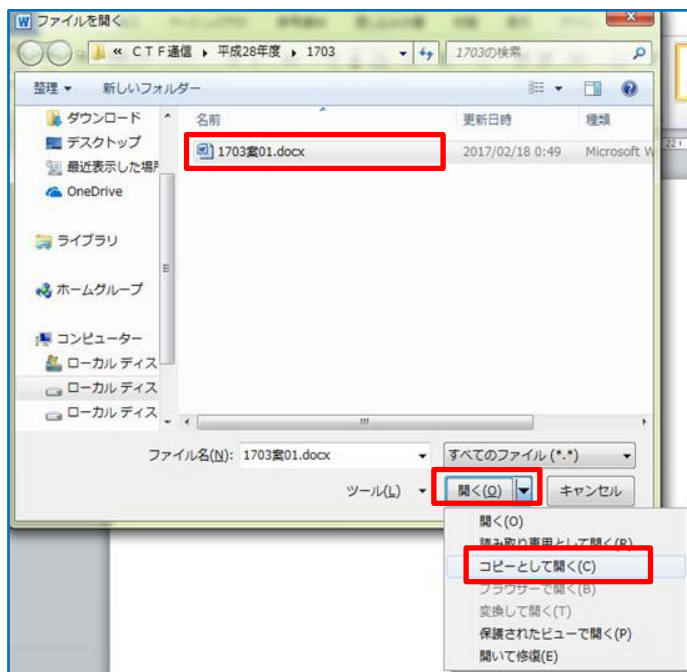
今月号は文字数が多いので、第1ページ、第4ページにSPコードを2個付けてあります。第1ページ、第4ページでは、先に左下のSPコードを、次に右下のSPコードを読んでください。



Word ファイルを編集時に間違えて上書き保存しないようにする



重要なファイルを編集するとき、編集内容を間違えて上書き保存してしまわないように、重要なファイルをコピーとして開いて編集する方法を紹介する。



●コピーとして開く方法

1. ファイルタブより「開く」ボタンをクリックする。
2. 「ファイルを開く」ダイアログボックスでファイルを選択し、「開く」ボタン横の▼をクリックして、「コピーとして開く」を選択する。

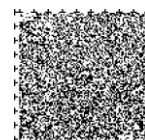
※ コピーとして開いた文章は、そのまま上書き保存しても「コピー（1）～」という名前が追加され、別ファイルとして保存される。



●既存の文書から新規作成でコピー文書を作成

1. [ファイル]タブを開き、左側のメニューから「新規作成」をクリックする。
2. 「使用できるテンプレート」画面から「既存のファイルから新規作成」をクリックする。
3. 目的のファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックする。

※ 選択したファイルの内容が新規文書へコピーされ、新規文書として開くが新規文書なので、ファイル名に「文書 1」というファイル名が付けられている。
(複数の新規文書を開いている場合は、ファイル名が「文書 2」、「文書 3」などとなる)





活動報告

【2月】

障がい者対象個人向けパソコン講座

(7日、14日、21日、28日)

IT サポート訪問

(20日、23日)



活動予定

【3月】

障がい者対象個人向けパソコン講座

7日、14日、21日

松阪市障がい者福祉センター 9:30~11:30



徒然なるままに

お伊勢さん 125 社の内、18 社が松阪に

前は、麻布を織る“神麻続機殿神社（かんおみはたどのじんじゃ）”を紹介して、わしも頭が痛くなって終わりにしたのう。そこから2kmくらい北へ行ったところに“神服織機殿神社（かんはとりはたどのじんじゃ）”がある。すぐじゃぞ。そうそう明和のイオンからもすぐじゃ。

この神社では、絹布の奉織が行われる。地元の人たちからは下機殿（しもはたでん）とも呼ばれておるが、鎮守の森の全景や境内の様子も前回の上機殿（かみはたでん）とそっくりじゃ。ここにも本殿のほか、末社八所が鎮祭されており、ここへお参りすると一度に9社お参りできるぞ。

お伊勢さんには125社あるが、上機殿と下機殿へお参りするとその内の18社をお参りできたことになるぞ。ただ残念なことに、松阪市にあるのはこの18社だけじゃ。このコーナーは本来、松阪市内を散策するものであるそうじゃが、次回からはほんの少し足を延ばして、玉城町の田丸や外城田、伊勢市の小俣まで行きたいと考えておる。季節もよくなってきたでう。



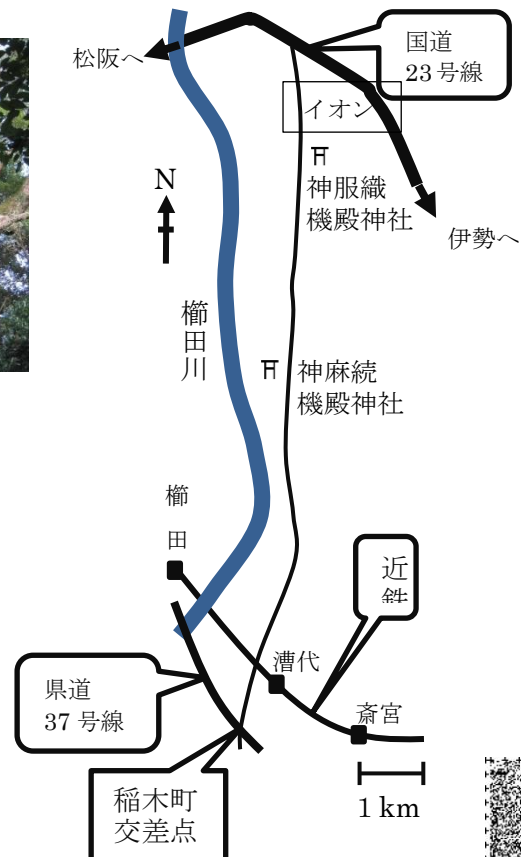
入り



境内の大木、
大きいのう



左が神服織機殿神社、右が八尋殿





リレー随筆

歳をとるにつれて、友人知人が病気になり入院したという話を聞くことが増えてきました。そうしたところ少しまえから入退院を繰り返す家族ができてきて、毎日のように病院通いをする日々が始まりました。そこで感じたことは、医療技術の進歩と保険制度の有難さです。

約 40 年前に祖父が胃腸の病気で亡くなりましたが、その頃は胃腸

については、開腹手術が中心でした。その後、内視鏡の発達と CT, MRI 等の身体の中を確認することができるようになりました。その

おかげで現在は内視鏡による手術が多く、非常に体への負担が少なくなってきました。私の家族も何回か内視鏡での手術を受け、その結果、すぐ症状が改善され退院となりました。ただ、私の家族は高齢ですので、色々

なところが悪くなり、症状が悪くなってくると入院、手術、転院、退院を繰り返すこととなりました。そうしたことで分かったことは、手術する病院は約 1 か月、リハビリの病院は 3 か月まで、その後は老健施設という流れです。

患者、家族にしてみれば、できましたら手術した病院で完治するまで入院していられたら良いのと思いますが、沢山の病人を診ていかなければならなくなっている現在では、致し方ないのではないでしょう。

また、入退院を繰り返すようになると、毎月のように、その請求書が来るわけですが、そのたびに健康保険制度の有難さをつくづくと感じています。私自身はできましたら「ピンピンころり」で健康保険のお世話にならずに済ませられたらと思っています。(^-^)



入院病棟の雛飾り



OLYMPUS 内視鏡



最新カプセル型内視鏡

編集後記



梅の花も咲き始めようやく暖かさを感じる季節になりましたが、まだまだ寒むいです。

今月は春彼岸ですね。お彼岸と言えば「おはぎ」、「ぼた餅」ですよね(〜)。漢字で書くと「お萩」と「牡丹餅」。

小豆の粒を萩の花に見立てて「お萩」、牡丹の花に見立てて「牡丹餅」と呼んだそうですが、厳密に言うと春は「ぼた餅」で秋は「おはぎ」ということになるのでしょうか。小豆の赤色には災いが身に降りかからないようにするおまじないの効果があるんだそうですよ。



CTF 通信第 168 号

2017 年（平成 29 年）3 月発行
発行者 IT を活用した障がい者支援 NPO 法人
CTF 松阪
発行責任者 山 田 則 男
住 所 〒515-0081
松阪市本町 2181-1
電 話 0598-21-7268
U R L <http://ctf.dip.jp/>

